



研究部会報告

●交通問題●

●第19回

日時：昭和60年11月20日(水)18:00~20:00

場所：東洋経済新報社ビル(日本橋) 出席者：9名

テーマ：「昭和75年度をめざした東京圏鉄道網の整備」

講師：北野 嘉幸氏(運輸省地域交通局)

昭和60年7月の運輸政策審議会答申「東京圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画について」の説明があった。これによると昭和75年における東京都心部を中心とするおおむね半径50km圏における高速鉄道網の整備計画が示されており、これからの東京圏における多核分散型都市構造への誘導を進めるための重要な要因であるため活発な討論がなされた。

新着図書案内コーナー

書名 線形システムの最適化 著者名 坂和正敏

特長

(1) 線形計画法における基本的な考え方と手法のほか、線形計画法の修正、拡張手法としての線形目標計画法、多目的線形計画法、ファジィ線形計画法をとりあげた。

(2) 理論の理解を助けるために随所に数値例を入れている。しかも数値例で扱う問題は、いろいろなケースについて、同一の問題で一貫して説明しているので、いろいろな考え方や手法の相互理解に役立つ。

キーワード 線形計画法、シンプレックス法、線形目標計画法、多目的線形計画法、ファジィ線形計画法

主な内容 1. 序論 2. 線形計画問題と基本定理 3. シンプレックス法 4. 幾何学的考察 5. 改訂シンプレックス法 6. 線形計画法の双対性 7. 双対シンプレックス法 8. 感度解析 9. 線形目標計画法 10. 多目的線形計画法 11. ファジィ線形計画法

出版社名 森北出版社 定価 2,400円

●決定モデルとその応用●

●第6回

日時：11月16日(土) 15:00~18:00

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 5階大セミナー室

出席者：坂口 実、栗栖 忠、中井暉久、吉田 稔、阪井節子、Syed. S., 穴太克則、(以上大阪大学) 玉置光司、中井達、田中造光、浜田年男、野村治、寺岡義伸、武田常一。

テーマ：(1) 吉田 稔(大阪大学基礎工学部)「stochastic sequences の最適停止 rule の1つの導出法について」
(2) 寺岡義伸(姫路工業大学)「ある不完備情報をもつタイミングゲームについて」

●待ち行列●

●第17回

日時：1985年11月16日(土) 14:00~16:30

場所：東京工業大学(情報科学科会議室)、出席者：30名

テーマと講師：Q17-1 マルチリング(LAN)の解析(橋本浩一、大前義次・茨城大) 一トークンが複数あるLANの近似解析とシミュレーションによる精度の確認。

●Q17-2 2ステージマルコフプロセスによる一般分布近似法(能條哲、渡辺均・NTT通研) 一任意の変動係数をもつ分布を近似できる位相が2の新しいマルコフ型分布の提案と待ち行列、信頼性への応用。

●Q17-3 非割込優先権のある待ち行列の拡散近似(高橋敬隆、木村文治・NTT通研) 一 $M, GI/G_1, G_2/1$ 非割込優先権モデルの平均待ち時間の近似式、拡散近似と保存則を使用。

●意思決定のための会計情報●

●第21回

日時：11月9日(土) 13:30~16:00

場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：8名

内容：(1) 値引きによる在庫削減の経済性評価に関する考察(金沢工業大学：今沢明男)

(2) 事業ポートフォリオ戦略のための財務計画モデル(東京理科大学：山口俊和)

●D P●(研究グループ)

日時：11月26日(火) 18:00~20:00 場所：日科技連

出席者：3名

発表：山崎源治「DPと待ち行列について」

(要旨) 最近待ち行列理論に動的計画法の応用がよく見られるようになったので、その現状をまとめた。特に診断の時期や回数を適当に決定する問題には興味があった。すなわち診断の時期が発病の直前であったり、病氣中であれば、回復が遅れたり、手遅れということになる。反対にあまり早かったり、回数が多いと病氣の発見が不可能であったり費用がかかることになる。

DP研究グループシンポジウム報告

日時：60年12月9日(月)、10日(火)

場所：八王子セミナーハウス、出席者：6名

- 発表：1. 山崎源治(工学院大)：DPと待ち行列について
2. 小田中敏男(都工大)：Optimal Inventory Processes
3. 中井暉久(阪大)、文献紹介
4. 安田正実(千葉大)：Impulse Control of Brawnian Motion
5. 蔵野正美(千葉大)：分散最小基準のマルコフ決定過程

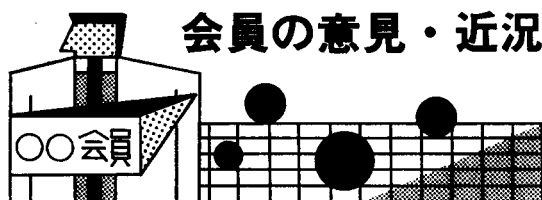
6. 坂口 実(阪大)、A Discrete-time Disorder Problem with Uncertain Probability of Disruption

7. 小田中敏男(都工大)：第1回 Bellman Continuum について

●日本のシステム科学●

第9回

- 日時：12月7日(土) 14:00~17:00
- 場所：八丁堀 東京都勤労福祉会館 出席者8名
- テーマ：「日本をシステム科学する時考慮すべき日本文化の独特さ」
- 発表者：上田亀之助(上田イノベーション研究所)
- 自分の事というものは案外と本人にはわかっていないことが多い。そこで他人とか外国人の観察や忠言を参考としながら、さめた目で日本を見つめて、見なおす必要を痛感しながら日本をシステム分析した。



声

論文誌の拡充を望む

東京工業大学情報科学科 岡田 章

第11期モニター(昭和60年6月~11月)を務めた縁で「会員の声」への投稿を依頼されました。そこで、日頃、OR誌や論文誌について感じることを2、3述べてみたいと思います。私自身はどちらかと言うと、OR誌よりは論文誌により関心をもっています。

論文誌については資金面などをもっと援助し、さらに質の高い国際的にも知名度の大きなものにする必要があると思います。たとえば、現在オフセット印刷のため投稿者は最終的な清書版を自分でタイプ打ちするか、その費用を支払わなければならない、他の論文誌に比べて投稿者の負担が大きいように思われます。

OR誌については、モニターをする以前から感じていたことですが、学会員ばかりでなく学会以外の人々が読

んでも非常に有益な特集が多く、もっとOR誌を学会の外に向けてアピールすることも大切だと思います。たとえば、一般の人が書店で手軽にOR誌を購入できるようにならないのでしょうか。最後に、モニターを務めて研究普及や編集委員の方々の仕事がいかに激務であるかを知りました。関係の方々のご労力に深く感謝いたします。

「ORの将来像」について継続的な議論を

都立商科短期大学 日下 泰夫

Post industrial society や情報化時代と言われ、価値観の多様化、経済・社会のソフト化現象等種々の変化が急速なテンポで進行しつつある今日、変化の方向を予見しつつ、それらに適切に対応していくことが重要ではないかと感じております。

現在、私は技術進歩下における設備更新(いわゆる、設備の陳腐化)を中心に研究を行なっておりますが、技術革新のテンポの速さから生じる研究の陳腐化現象にも直面しております。この陳腐化の程度は研究対象によって異なりますが、オペレーションズ・リサーチが社会の諸側面に関連している以上、程度の差はあれ、社会の変化に応じてその内容も変化していくことが予想されます。それゆえ、個人はもとより学会としても、「ORの将来像」について特集やシンポジウム等で継続的にとりあげていくことが必要ではないかと考えております。